

何を使う

機器 スマートフォンまたはタブレット

ソフトウェア（アプリ）

メモ帳（OS 標準のもの）もしくはワープロソフト

日本語入力ソフト（OS 標準で 50 音入力ができるもの）



それをどう使う（それで何ができる）

【言語が不明瞭であり、書字に時間のかかる知的障がいと肢体不自由のある生徒】

- ① 学習場面で使用する定型文（感情や活動など）を設定しておく。
- ② 日本語入力ソフトの 50 音入力を、左側にア行が表示されるモードに、変更する（普段使っている 50 音表と同じ配置にする）。
- ③ 生徒は、教師の質問に対して、予測変換を含めた日本語入力ソフトを使って、自分の考えを文字で表現する。

ここが変わる、活用メリット【ICT 活用 Before-After】

自立活動（コミュニケーション）

【 Before 】

- 生徒が表現したいことが、担任教師など、普段接している教師以外には、伝わりづらい。
- 文字を手書きするために時間がかかる。



【 After 】 メリット

- 普段使っている 50 音表のレイアウトで使用したことで、よりスムーズに文字を入力し、やりとりできるようになった。
- 入力した文字を見直すことで、読みやすい文章を作ることができるようになった。
- 自分の意思が相手にしっかり伝わることで、成就感や達成感を味わうことができ、意欲の向上につながった。

機器 (台数)	スマホ	タブレット	PC	その他		学習場面	一斉	個別	協働
	○	○	△					○	
	PCでも50音入力に対応した日本語入力ソフトがあれば可能								
授業実施時に必要な環境→				インターネット接続			1人1台端末		○
活用が想定される校種	小	中	高	特	活用が想定される教科・科目等		自立活動		
	△			○	活用が想定される場面		意思表示		